

○ 調 査 問 題

(1) 右の文章中の「ねらった」は、述語です。「ねらった」に対する主語を、文章中より書きぬきなさい。

(丘おか 修三しゅうざう『紅鯉べんい』による。)

(丘おか 修三しゅうざう『紅鯉べんい』による。)

2

の文章を読んで、次の問いに答えなさい。

○ 調査問題の趣旨・内容

「文の構成を理解する力」が身に付いているかどうかをみる問題

【問題内容】 述語に対する主語を書き抜く。

【作成の趣旨】 この問題は、主語と述語の関係を問う問題である。一文から見つける問題ではなく、短い文章の中から主述を見つける応用問題となっている。登場人物の行動や場面の様子を読み取るための核となる事項である。

主語と述語の関係は低学年の指導事項としてその学習が始まるが、学年が上がるにつれて主述関係の理解が定着しているかどうかを把握するために、この問題を作成した。

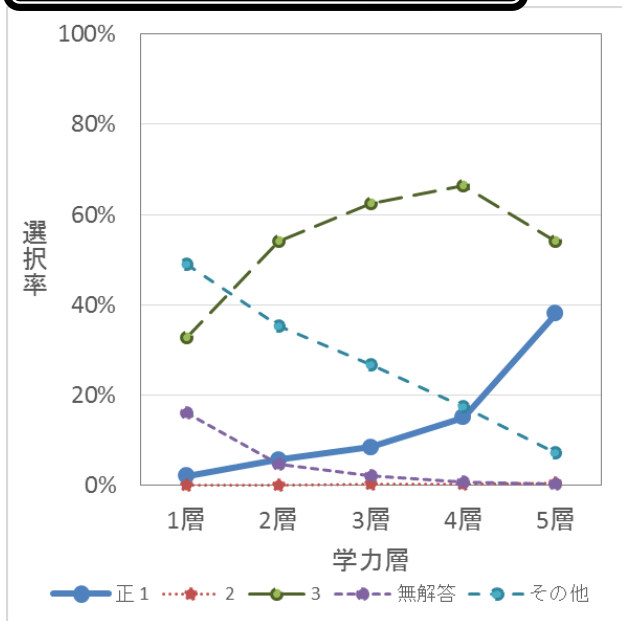
○ 誤 答 分 析

解答類型 出題のねらい	①正答	2 「ぼく」と解答	3 「フナやナマズ」と解答	無解答	その他
	文の構成を理解することができる	15.4%	0.2%	54.3%	4.5%

正答率は15%であり、他の問題と比較してかなり低い。誤答の多くが「フナやナマズ」であり、述語「ねらった」に対する主語ではなく、「ねらった」に対する目的語を書き抜いている。また、「ねらった」に対する主語「ぼくは」が述語から離れている上、「ねらった」の直前に「フナやナマズ」があることも、誤答を誘引する原因となっている。

依然として、動作の主体を表すものが主語であるということの理解に課題が残されている。主語と述語の照応関係については、下学年で学んだことの定着が図られず、意識して活動できていないため、6年間を通して、計画的に、そして継続的に指導することが求められる。

○ G - P 分析



- どの層でも同様に類型3の「フナやナマズ」と誤答する生徒が最も多い。
- 特に1～3層では、類型3とその他の解答類型を併せると、90%以上を占め、一方、正答を選択した生徒は10%に満たない。これは、動作の主体を表すものが主語であるということの理解がほとんど定着していないことをうかがわせる。

○ 指導上の改善ポイント

主語と述語の照応関係については、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕における指導として、時間を設定して取り組ませる必要がある。また、下学年で学んだことの定着が図られず、意識して活動できていないため、習得した知識や技能を他の三領域の学習においても計画的・継続的に指導することが求められる。

前年度までの学習内容を生徒と共に確認しながら、授業を展開することができれば、6年間を通じて、確実に、そして系統的に指導することができる。

以下に他の三領域の中から、「読むこと」と「書くこと」の学習の中で取り組むことができる活用例を挙げた。主語と述語の照応関係の理解が、文章の内容を理解するのに役立つことや的確に書くことにつながることを認識させ、確実な定着を図りたい。

文章中の述語に着目させる読みの指導

文章の中での主語と述語の関係性を捉える際に、まず「述語」は(何か)を捉えてから、その「述語」に応じた「主語」を読み取るという発想〔動作の主体〕の読み取り指導。

《例文》

本文からの抜粋

また、次のような文例を使っでの指導も効果的である。

《例文》今朝、母を連れて車で駅に向かった。

述語「向かった」に対する主語は見当たらない。文法上はないが、文脈上の主語は前後の文章を読むことで捉えることができる。

そして、倒置法によって表現された文章を活用すると、主語と述語の関係はよりの確に把握することができる。

《例文》すごい、あんな難しい曲を演奏できるお姉さんは。

主語と述語に着目させて要約文を書く指導

中心となる主語や述語を文章中から見つけることで、適切な要約文を書く指導。

《例文》

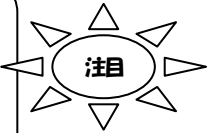
本文からの抜粋

- Step1 文章中の主語を取り出し、中心となる主語を見つける。
- Step2 文章中の述語を取り出し、中心となる述語を見つける。
- Step3 中心となる言葉や修飾語を取り出し、新たな一文(要約文)を作る。

《例》

- | | |
|-------|---------|
| Step1 | 本文からの抜粋 |
| Step2 | 本文からの抜粋 |
| Step3 | 本文からの抜粋 |

※関連する問題
平成26年度全国学
力・学習状況調査
中学校国語B 1三

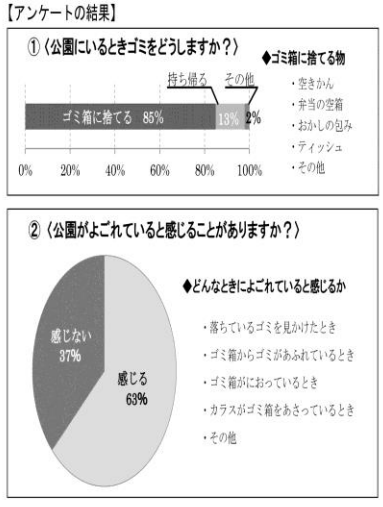


○ 調査問題

(3) あなたは「公園のゴミ箱をなくす」ことに賛成しますか、反対しますか。あなたの立場を明確にして、その理由をあとの条件1から条件3にしたがって書きなさい。

条件1 二段落構成で、六行以上、九行以内で書くこと。
条件2 一段落目には、「公園のゴミ箱をなくす」ことに賛成なのか反対なのかを書くこと。
条件3 二段落目には、賛成または反対する理由を、【アンケートの結果】のグラフの内容にふれながら書くこと。

※ 解答は必ず解答用紙に書きなさい。次のページの原稿用紙は使っても使わなくてもかまいません。



【話し合いの一部】

司会 今日公園の使い方について話し合いたいと思います。何か意見のある人はいますか。

野村 私はこの前公園で、「来年から公園のゴミ箱をなくします」というポスターを見つけた。私はゴミ箱がないと思う。ゴミ箱はなくなさないほうがいいと思います。

野村 なぜゴミ箱がないと思うのですか。(理由)

司会 このアンケート結果を見てください。(理由)

野村 だから、ゴミ箱はあったほうがいいと思います。今の野村さんの意見に対して意見のある人はいますか。

山本 ほくは公園のゴミ箱はなくなしたほうがいいと思います。なぜそう思うのですか。

司会 このアンケートの結果を見ると、(理由)ということがわかります。だから、ゴミ箱はなくなしたほうがいいと思います。

10

田中さんたちのクラスでは、公園のゴミ箱について話し合っています。次は、「話し合いの一部」と、田中さんが公園のゴミ箱について、クラス全員に取った【アンケートの結果】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

○ 調査問題の趣旨・内容

「根拠を用いて自分の意見を明確に書く力」が身に付いているかどうかをみる問題

【問題内容】 「公園のゴミ箱をなくす」ことについて、賛成か反対かの立場を明らかにして、自分の意見を二段落構成で書く。

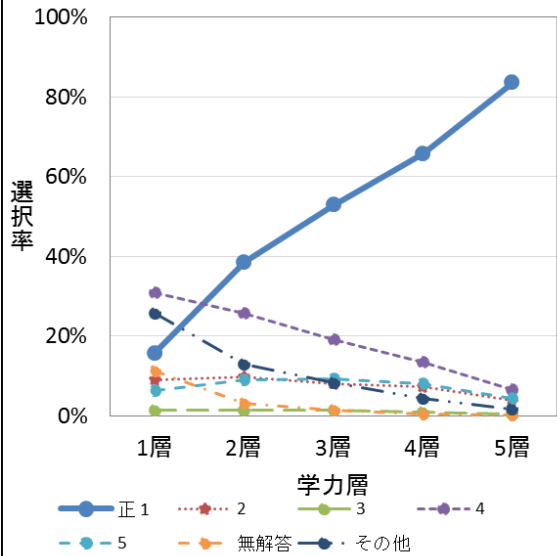
【作成の趣旨】 この問題は、話し合いについてまとめられた資料をもとに、自分の意見を持ち、3つの条件を踏まえてグラフを利用して理由をまとめる問題である。この問題のポイントは、「条件3 二段落目には、賛成または反対する理由を、【アンケートの結果】のグラフの内容にふれながら書くこと。」にしたがって、グラフの内容を根拠に自分の理由を述べられるかであり、情報を活用する力が求められる。また、「条件1 二段落構成で、六行以上、九行以内で書くこと。」という制限の中で、どのグラフのどこを活用すればよいのか取捨選択させ、いかに自分の意見に説得力をもたせて伝えられるかが大切であり、表現する力も求められている。

○ 誤答分析

解答類型	正答①	2 二段落構成でない	3 行数等の条件不足	4 グラフにふれてない	5 賛否の理由がない	無解答	その他
出題のねらい 根拠を用いて自分の意見を明確に書くことができる	53.6%	7.3%	1.0%	18.1%	7.2%	3.0%	9.8%

- 誤答のうち、最も多かったのは類型4であり18.1%に上った。
 - ・「(第一段落) 私は、公園のゴミ箱を無くすことは反対です。(第二段落) アンケートの結果を見ると、公園でゴミを捨てる人がいるということがわかります。このことから私はゴミ箱はあったほうがいいと思います。」→グラフの読み取り結果の記述として不十分
- 設問の設定を理解していない等、類型その他の解答が9.8%と一定程度の割合を占めている。
 - ・「公園にごみがない方がいいと思います。」→ゴミ箱の有無という設問の設定を理解していない。

○ G - P 分析



- 学力層が上がるほど、類型4 (グラフの内容にふれながら書く) を満たすことができている生徒が増えている。
- 設問の設定を理解していない等、類型その他の生徒は、1～3層で10%以上を占めるが、4層以上では少なくなっている。

○ 指導上の改善ポイント

○ 理由を明確にして自分の考えをまとめる (書く・話す) 指導

中学年の「書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例をあげて書くこと」に触れ、高学年では、「自分の考えをまとめる→ペアに発表する→ペアからの質問を受け、答える→自分の考えを再度まとめ直す」といった一連の活動時間をしっかりと確保することで、「引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書く」力を付けていく。

指導事例 【公園のゴミ箱をなくす】ことについての意見文を書こう

まず、自分の立場を明確にしたうえで、その理由も合わせて伝えられるようにし、ノートなどに書かせる。その後、隣の席の友だちなどのペアに発表する取組を行うようにする。

わたしは、公園のゴミ箱をなくすことに賛成です。理由は、ゴミ箱の周りが汚れていることがよくあるからです。

ゴミ箱をなくすと、公園全体が汚れませんか。

グラフからもわかるように、多くの人は公園ではゴミ箱にゴミを捨てるということです。ゴミ箱があるからゴミ箱に捨てるのであって、ゴミ箱がなければみんなゴミは持ち帰るようになると思います。

その際、聞き手となる人は、一つは質問するようにさせ、その答えを踏まえて、相手に自分の考えを伝える。ペアとの発表を踏まえて、再度自分の考えをノートなどに書かせる。

また、国語の授業に限らず、「書く活動」を多くの場面に取り入れることが大切である。

ここがポイント!

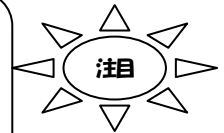
自分の考えを書かせるだけでなく、ペアの友だちに発表することで相手を意識させることができる。また、ペアの友だちから質問をしてもらうことで自分の考えを深めることができる。

また、よく書けたものについては、全体で取り上げることで、広めることができる。

○他の教科等の指導との関連

国語の学習だけでなく、他教科等の学習においても、図表やグラフ、写真などの資料について、何の資料なのか資料からわかることを、各自がじっくりと考え、ノートに書く時間をとる。

自分の考えをもったうえで、友だちの発表を聞き、自分では気付かなかった考えに触れて、考えを広げたり、深めたりすることができる。



○ 調 査 問 題

9

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

（こまごまの話）

お団子のようにこんもりと東ねたへアスタイルが祖母の走番だ。小学生の私（ひびし）は、祖母をすみれちゃんと呼んでいる。ある日、すみれちゃんは、台風で風箱から逃げてしまった親鳥に代わって、鳥の卵を自分のお団子卵の髪の毛の中で、私と一緒に育てることになった。週末になっても卵は卵のままだ。けれども、すみれちゃんは、相変わらず卵を温めている。

（小川糸『リボン』による）

（小川糸『リボン』による）

※1 転卵：人工飼育の際、卵を時々動かすこと。

※2 クライマックス：最高潮

※3 ワット数：（この場合は蛍光灯の）明るさを表す単位。

(3) 「そんなことができるの？」とありますが、そんなことはどんなことですか。「を確認すること」に続くように、次の文の□にあてはまる言葉を本文中から、十字以上、二十字以内で書き抜きなさい。

を確認すること。

10

20

○ 調査問題の趣旨・内容

「登場人物の言動や心情の理由を読み取る」力が身に付いているかみる問題

【問題内容】 大問9（3）は、登場人物の言動の理由を読み取り、適切な内容を本文中から探し、「～を確認すること。」という語句に続くように10字以上、20字以内で書き抜き問題である。

【作成の趣旨】 この問題は、登場人物の言動の理由や場面の中心部分を適切に読み取ることができるかをみる問題である。この問題のポイントは、前後の文脈や場面から登場人物の言動や心情の理由を整理して読み取り、解答の条件に合わせて解答する力が求められる。

○ 誤 答 分 析

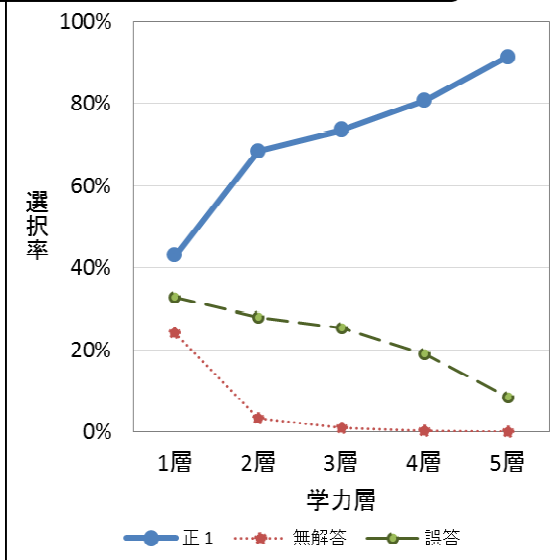
出題のねらい	正答	誤答	無解答
場面の中心を読み取ることができる	72.4%	22.1%	5.5%

大問9は、登場人物の言動や場面の中心を読む力をみることをねらいとしている。読み取った内容を選択肢で解答する小問では正答率も高く、誤答も少ない。しかし、記述式で答える小問3では正答率こそ低くはないものの、さまざまな誤答がみられた。

誤答例としては、「語句が抜け落ちてしまっている」「語順を変えてしまっている」「本文の内容を自分で言い換えてしまっている」「適切な字数で解答していない」などである。

このことから、内容を正確に読み取るだけでなく、前後の文脈から要旨を整理しながらとらえ、適切な表現で解答する力の向上が求められると考えられる。

○ G - P 分析



- 大問9のうち(1)及び(4)は選択肢で解答する形式で、2層においても高い正答率がみられる。
- 本問((3))は、全体の正答率は72.4%を示すが、4層でも約20%が誤答している。解答式が「あてはまる言葉を本文中から、10字以上、20字以内で書き抜きなさい」という形で出題され、読み取った内容と問題文の記述を対応させ、さらに条件に合わせて解答しなければならなかったためと考えられる。

○ 指導上の改善ポイント

表現に着目し、内容の理解を深める指導

- 作品に書かれた描写や表現から、登場人物の心情や作者の意図を総合的にとらえる。
- ①登場人物についての特徴ある表現や主人公の心情が表わされた語句に傍線を引き、ノートに書き出す。
- ②複数の語句や表現から、作品の中で登場人物の心情や作者の意図がどのように描写されているかノートにまとめる。その際には、どの表現から読み取ったのか、理由と根拠を示しながらまとめる。
- ③それぞれの登場人物の人柄や作者の意図について自分の意見や感想を交流させ、作品理解を深める。

取組例 『字のない葉書』 向田邦子

「こそばゆいような、晴れがましい気持ちになった」

〔こそばゆい〕 くすぐったい / 照れくさい

〔晴れがましい〕 表立ってはいはなやかである
/ 表立っていきまりがわるい

→ ここでは「照れくさいが、大人として扱ってもらっているような気持ち」だと思う。二面性のある父親から手紙もらったので、二つの気持ちが出てきたのではないだろうか。「晴れがましい」という語句が後なので、うれしい気持ちが強いのだと思う。

ここがポイント!

- ・ 注目した語句の辞書的な意味と、文脈上での使われ方と比較させながら、語義を把握させる。
- ・ 3年間の物語作品を扱うなかで「表現メモ」など共通の枠組みで継続的に取り組むことにより、言葉に対する意識を高め、表現への理解を深める。

要旨を整理して捉え、場面に応じた適切に表現する指導

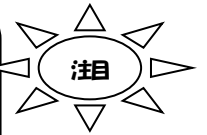
- 小学生に向けて自校を紹介するパンフレット(学校説明会などで実際に配布する)を作る。
- ①事前に様々なパンフレットを集め、その工夫やアイデアを見つける場面を設定する。
- ②伝えたい内容を決め、紙面構成を考える。
- ③選択した自校の魅力について、資料を用いながら小学生に分かりやすい文章を書く。
- ④グループ間で情報の異同や改善点について話し合い、推敲する。

発展

ここがポイント!

- ・ 主語・述語の関係に配慮し、修飾部が長くないように一文を構成する。
- ・ 伝えたい事柄と付加的な部分とのバランスや伝えたい内容の順番と構成に配慮する。

※関連する問題
平成26年度全国学
力・学習状況調査
中学校国語B 1三



○ 調査問題

〔発表原稿〕

① 埼玉県の特産品である狭山茶の起源は古く、鎌倉時代までさかのぼります。八百年以上の長い間作り続けられているということは、埼玉県がお茶の生産に適した土地だということなのでしょう。

② お茶の木は水はげがよい土地、雨が多い土地を好みます。また、暖かい土地では生長が早く、何度もお茶を収穫することが出来ます。

③ 狭山茶の産地である埼玉県西部は、水はげがよく、雨も多く降ります。その点ではお茶の栽培に適した土地だと言えるでしょう。

④ ただし、埼玉県は

〔第四段落〕

⑤ こうして作られた狭山茶は、濃厚でコクのある味で人々に愛され、埼玉県を代表する特産品になっています。

〔インタビューの一部〕

上原：狭山茶について教えてください。よろしくお願ひします。

石田：はい、お願ひします。

上原：ア

石田：鎌倉時代といわれています。

上原：それから今まで、ずっと作り続けられているのですか。

石田：戦乱の時代に一度は作られなくなりましたが、江戸時代に復興し、それからずっと作り続けられています。幕末に横浜が開港してからは、お茶は重要な輸出品にもなりました。

上原：長い間作り続けられるということは、埼玉県は茶の生産に適しているということですか。

石田：お茶の木は、水はげがよく雨の多い土地を好みます。そして暖かい土地では生長が早いので、何度もお茶の葉を収穫、たくさん収穫することができます。狭山茶の産地、埼玉県西部は、火山灰が降り積もってきた土地なので水はげがよく、雨も多いので、茶の栽培に良い条件なんです。

上原：では、埼玉県はお茶の生産にびつたりな土地なんですか。

石田：はい、ただここには、生産者の工夫や努力もあります。

〔インタビューは続く〕

③ 上原さんは、狭山茶についてインタビューして分かったことをまとめた「カード」を作りました。この「カード」を使ってクラスで発表する時の「発表原稿」を書こうと思います。これをもとに「発表原稿の第四段落」を、次の条件1から条件3に従って書きなさい。

条件1 六行以上、九行以内で書くこと。

条件2 「ただし、埼玉県は」に続くように、また、⑤段落に続くように書くこと。

条件3 「寒い」「茶の葉をつむ回数」の二つの言葉も、両方とも使って書くこと。

④ 狭山茶を作るうえでの工夫・努力

埼玉県は他の茶産地より北に位置しており、それらの産地に比べ寒い。

茶の葉をつむ回数は年2回（鹿児島県は年5回）

・寒さに強い品種に改良
・寒さにきたえられた肉厚な茶葉をいかに茶作り

③ 埼玉県が茶栽培に適している点

ア、水はげがよい土地
狭山茶の産地、埼玉県西部は、火山灰が降り積もってきた水はげのよい土地である。

イ、雨の量
埼玉県西部は雨が多い。

① 狭山茶の歴史

埼玉県の特産品、狭山茶
鎌倉時代から800年以上作り続けられている。

② 茶の木の好む土地

ア、水はげがよい土地
イ、雨が多い土地
ウ、暖かい土地

○ 調査問題の趣旨・内容

「集めた材料をもとに、段落の役割を考えて文章を構成する」力が身に付いているかをみる問題

【問題内容】 インタビューの内容をまとめたカードをもとに、発表原稿を完成させる。

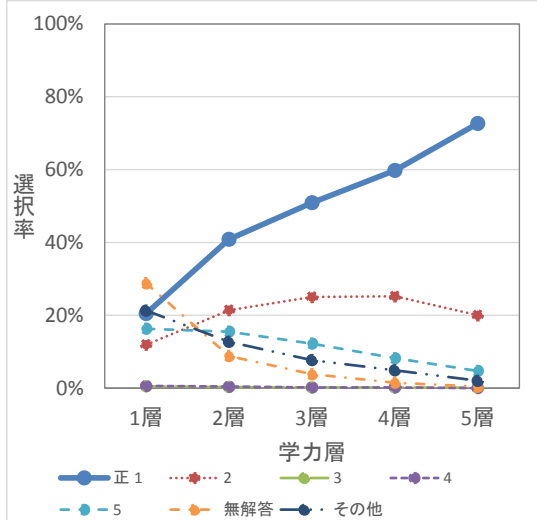
【作成の趣旨】 この問題は資料を適切に引用し、伝えたい事実を明確にして書くことができるかどうかをみる問題である。この問題のポイントは、発表原稿の第四段落の冒頭にある「ただし」という接続詞に着目し、第四段落には、狭山茶を栽培するうえでの欠点とそれを克服するための工夫がまとめられていなければならないことに気付く必要がある。そのうえで、「カード」の中から、必要な情報が書いてあるものを探して引用し、条件に従って、第四段落を完成させるというねらいで、この問題を作成した。

○ 誤答分析

解答類型	1	2	3	4	5	無解答	その他
出題のねらい	正答①	条件3を満たさない	条件1を満たさない	条件1,3を満たさない	条件2を満たさない	無解答	その他
資料を適切に引用し、伝えたい事実を明確にして書くことができる。	50.6%	20.8%	0.3%	0.3%	10.9%	8.0%	9.2%

- 正答率が50.6%にとどまり、無答率が8%と課題が残る。
- 解答類型2のように「指定語句を正しく使っていない」割合が高い。「寒い」を「寒く」として書いていたり、「茶の葉を摘む回数」を「茶を摘む回数」として書いていたりするものがある。
- その他の誤答傾向として、「情報を取り出すことはできているが、原因と結果が整合しない文章を書いている」がある。「茶の葉を摘む回数が2回」というハンドが「寒さに強い品種に改良した」や「寒さにきたえられた肉厚な茶葉をいかに茶づくり」という工夫の結果になっている例がある。

○ G - P 分析



- 1～5層で共通して、類型2の指定語句を正しく使っていない解答が20%程度あり、学力層による違いはあまり大きくない点が特徴的である。
- 無解答率は、1層では30%近いものの、3層以上では5%未満とかなり少なくなっている。

○ 指導上の改善ポイント

資料を基に根拠を明確にして書く指導

資料を適切かつ効果的に引用し、根拠を明確にして書く力を付けるためには、目的意識や相手意識を具体的に設定し、かつ生徒が意欲的に取り組むような課題を設定することがポイントとなる。この問題のように「話すこと・聞くこと」の学習課題と関連させたり、「読むこと」の課題と関連させた課題を設定したりすることも効果的である。相手によく伝わる文章にするためには、複数の事例や専門的な立場からの知見を示すことが必要となってくる。中学年の「書くこと」の中心を明確にし、目的や、必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと、高学年の「引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと」をふまえながら、資料を適切に選択し活用する力を身に付けさせたい。

【指導事例】

「国宝 歎喜院聖天堂」のパンフレットをつくろう！

(地域の名所・特産物パンフレットを作ろう！)

- ①パンフレットに載せる内容を考える。
*対象は下学年 学校行事等と関連させた課題
- ②正式なパンフレットやホームページ等の資料を分析し、どの資料をどのように引用するかを吟味する。
- ③紹介文(パンフレットの主になる部分)を書く。
- ④レイアウトや見出しを考える。
- ⑤書いた文章を推敲する。グループで交流。
- ⑥清書、完成したものは下級生に活用してもらう。

ここがポイント！

○単元を通しての学習のゴールを設定する。指導事項を指導するのにふさわしいか。生徒が意欲的に取り組むような課題であるかがポイント。

○作成の目的に合ったパンフレットにするには、どうしたらよいかを話し合わせる。観点を示して、話し合いをさせることがポイント。

言語活動を通して指導事項を指導する

(言語活動例) 1年 (イ) 図表などを用いた説明や記録の文章を書くこと。



(指導事項) 1年 ウ 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。

他の教科等の指導との関連

国語の授業に限らず「書く活動」を多く取り入れる。理科や社会などのレポート作成や、総合的な学習の時間の発表などに関連させた課題設定ができるとうい。レポートをリライトする言語活動も考えられる。

○ 調 査 問 題

2 次の文章の——線部ア、オのうち、へ活用の種類が同じ動詞が二つあります。それはどれとどれですか。その記号を書きなさい。また、その〈活用の種類〉をあとの1～5の中から一つ選びなさい。

(畑村洋太郎『組織を強くする 技術の伝え方』による)

(畑村洋太郎『組織を強くする 技術の伝え方』による)

1 五段活用 2 上一段活用 3 下一段活用

4 サ行変格活用(サ変) 5 カ行変格活用(カ変)

〈活用の種類〉が同じ動詞 と

〈活用の種類〉

○ 調査問題の趣旨・内容

「動詞の活用が理解できているか」をみる問題

【問題内容】 文中の傍線部の五つの動詞のうち活用の種類が同じものを選び、その活用の種類を五つの中から選択する。

【作成の趣旨】 この問題は動詞の活用が理解できているかをみる問題である。この問題のポイントは「活用の種類」の理解と、「ある」の識別、さらに、「試せる」のような可能動詞の理解である。

完答の正解が10.6%、活用の種類が同じ動詞を選ぶことだけが正解したのも3.9%であることから、動詞の活用についての理解が低いと思われる。特に「ある」は動詞・補助動詞・連体詞と、紛らわしい使われ方が多いため難解な単語である。設問では傍線部の単語が動詞であることが示されているが、そもそも「ある」が動詞であるという知識・理解がないのではないか。

○ 誤 答 分 析

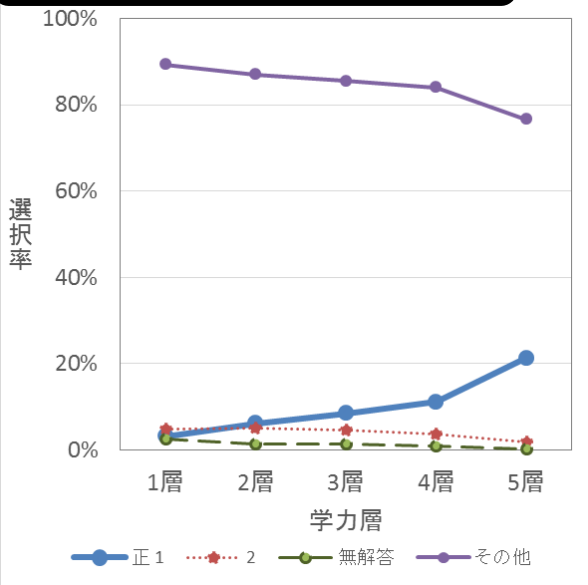
出題のねらい	① 正答	2	無解答	その他		
動詞の活用を理解することができる	10.6%	3.9%	1.3%	84.2%		

正答率は10.6%であり、誤答のうち活用の種類が同じ動詞を選ぶことができたのは3.9%のみ、その他が84.2%である。この結果から、動詞の活用の種類についての理解が低いと考えられる。特に、次の2点についてが課題になると考えられる。

- ① 「ある」の活用のしかたと活用の種類についての理解が不十分である。(紛らわしい「ある」との識別も重要)
 - ② 「試せる」の活用のしかたと活用の種類についての理解が不十分である。(「試せる」と「試す」の違いの理解)
- ※ 「試す」は五段活用。「試せる」は可能動詞であり、活用の種類は下一段活用である。

活用の種類についての基礎知識を、活用表を作成しながら指導し、その特徴に気付かせることが大切である。また、一つの動詞を活用させた短文をいくつも作りながら、その特徴や活用形を理解させていく指導が効果的である。

○ G - P 分析



- 正答を選択できた生徒は1層で約3%、5層でも約21%、また、その他の誤答の割合は1層で約84%、5層でも約76%と、いずれも大きな差はない。
- さらに、誤答の中でも、活用の種類が同じ動詞を選択できたの(類型2)はいずれの学力層でも低い。
- 以上のことから、動詞の活用の種類についての理解が低いことは否めないであろう。どの層においても難解な問題であったといえる。

○ 指導上の改善ポイント

基礎知識の指導

- (1) 小学校高学年から品詞名の指導をする。
- (2) 中学1年生から年間計画の中に文法の指導を位置付け、計画的に指導する。
- (3) 活用の種類についての基礎知識を、活用表を作成しながら指導し、その特徴に気付かせる。

◆活用語尾が次のような特徴になる動詞。

- 【五段活用】 五十音図の五段に活用する。
- 【上二段活用】 // イ段だけに活用する。
- 【下二段活用】 // エ段だけに活用する。
- 【カ行変格活用】 // カ行だけで特別な活用をする。
- 【サ行変格活用】 // サ行だけで特別な活用をする。

◆可能動詞の理解とその活用(下二段活用)。

【例】「試せる」「読める」「泳げる」「飲める」 等

※「試す」「読む」「泳ぐ」「飲む」との違いを理解させる。

- (4) 一つの動詞を活用させた短文をいくつも作りながら、その特徴や活用形を理解させていく。

【例】「読む」 ◇私は本を読みます。 ◇説明書を読めばよく分かる。 ◇同じ本を何度も読んでみる。

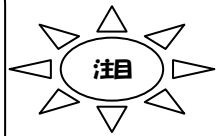
する	来る	捨てる	起きる	ある	基本形			
(す)	来	捨	起	あ	語幹			
せし	こ	て	き	ろら	未然形			
さ								
し	き	て	き	つり	連用形			
する	くる	てる	きる	る	終止形			
する	くる	てる	きる	る	連体形			
すれ	くれ	てれ	きれ	れ	仮定形			
せよ	しろ	こい	てよ	れろ	きよ	きろ	れ	命令形
サ行変格活用	カ行変格活用	下二段活用	上二段活用	五段活用	活用の種類			

紛らわしい品詞の理解

- (1) 「ある」を使った短文をいくつも作らせ、その違いに気付かせる。
 - ① ◇私の家には車とバイクがある。 ◇私の家には車とバイクがあります。【動詞】
※活用し、終止形が「-る」とウ段の音で終わる。
 - ② ◇これがAとBとの違いである。 ◇これがAとBとの違いであろう。【補助動詞】
※①と違って、「存在のある、なし」の意味を失い、補助の役割となっている。
 - ③ ◇彼と私はある人を訪ねた。 ◇私はある仮説を立てた。【連体詞】
※活用せず、体言を修飾する。
- (2) 授業の中で紛らわしい単語が出てきたときに、その特徴に触れるようにする。

※関連する問題

平成25年度全国学力・学習状況調査
中学校国語B 3一ウ



○ 調査問題

13 次は、満員電車でベビーカーを乗せることについて、新聞投書を読んで、安田さんが書いた【発表スピーチの原稿】について、これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【発表スピーチの原稿】
満員電車でベビーカーを乗せることについて、新聞に二つの投書記事が掲載されていました。一つは、毎朝、満員電車を利用して通勤している人の投書です。ベビーカーが場所をふさいでしまうと、電車が揺れた時や人に押された時に、ベビーカーの上に倒れそうになり、乗っている人やベビーカーに座っている子供に危険があるというものです。
もう一方は、子供の母親からの投書です。赤ちゃんを抱いたり小さな子供と手をつないで満員電車に乗ったりすると、満員の人たちにつぶされそうになって危険なので、ベビーカーは必要だというものでした。
前者の意見には「ベビーカーを乗せると子供にとっても危険だ」、後者の意見には「ベビーカーを使わないと子供にとって危険だ」とあり、どちらも子供の安全を考えているようでした。

(3) 【発表スピーチの原稿】を読んで、あなたならどのように解決するのがよいと思いますか。次の【安田さんが考えたアイデア】から取り入れるアイデアを一つ選びなさい。(どのアイデアを選んでもいいません)そして、〈解決策とその理由〉を、あとの条件1から条件3に従って書きなさい。

【安田さんが考えたアイデア】

- ① ベビーカー専用ゾーンの設置(特定の車両にベビーカー専用ゾーンを設置する)
- ② ベビーカーを使用する人の時間差出勤(混雑する時間をさけた出勤)
- ③ 幼稚園や保育所の増設(電車で遠くの育児施設に通わなくて済むようにする)

- 条件1 二段落で、六行以上、九行以内で書くこと。
- 条件2 一段落目には、【安田さんが考えたアイデア】のうちどのアイデアを選んだのかを書くこと。
- 条件3 二段落目には、「子供」「満員電車」「危険」という言葉をすべて使って、その理由を書くこと。

○ 調査問題の趣旨・内容

「根拠を明確にして自分の意見を書く力」が身に付いているかどうかをみる問題

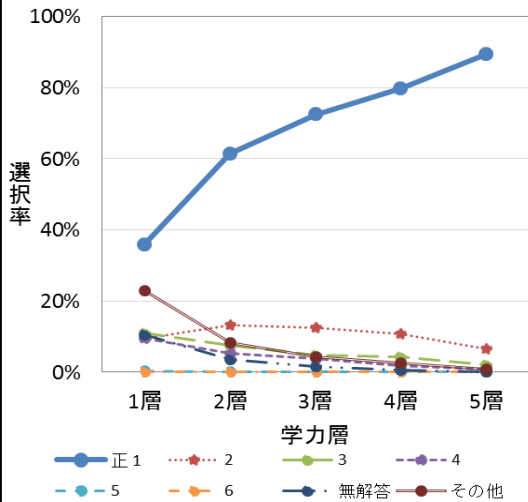
- 【問題内容】 問題の解決策を1つ選び、それを選んだ理由を二段落構成で書く。
- 【作成の趣旨】 根拠を明確にし、自分の意見との整合性ができているかどうかを書くことをとおしてみる問題である。この問題のポイントは、選んだ解決策の根拠とその理由を具体的に示すことであり、また、条件にある3つの言葉をすべて使うことにより、説得力のある文章を構成する力が求められる。相手に対し、自分の意見が効果的に伝わる文章を書く力を付けるというねらいで、この問題を作成した。

○ 誤答分析

解答類型	2	3	4	5	6	無解答	その他
出題のねらい	条件3を満たさない	2段落構成でない	行数等の条件不足	条件2を満たさない	アイデアを選んだ理由の記述不足		
効果的な文章を書くことができる	69.1%	10.3%	5.7%	4.1%	0.1%	0.2%	3.1%

- 正解率が、69.1%であり、他の記述問題と比べ、やや高くなっている。
- 誤答傾向の1つに、「指定語句が適切に書けていない」がある。「子供」「危険」「満員電車」と書くべきところを、「小供」「危検」「満員の電車」となっている。問題文の読み取りが浅いことが考えられる。国語の最後の設問であり、時間配分の指導も必要である。
- そのほかの誤答として、「アイデアを選んだ理由を書き、アイデア自体を書いていない」、「選ばなかったアイデアについてしか書いていない」というものがみられた。条件の行数で、まとめる力が必要となる。物事を簡潔明瞭に表現する指導が必要である。

○ G - P 分析



- 無解答率は、1層においても約10%で、他学年の記述問題に比較すれば少なくなっている。
- 「3つの言葉を全て使って書く」条件を満たさない解答は、学力層に関わらず、同じくらいの割合を占めている。

○ 指導上の改善ポイント

発展

構成を工夫した文章を書く指導

中1の「段落の役割を考えて文章を構成すること」を受けて、中2では、自分がどのように考えているかという、立場を明確に表明する部分を、文章全体の、どこに位置付けることが適切であるかを考えながら書くことが、文章を構成する上で大切である。そこで、新聞の投書欄を活用し、構成を工夫した意見文を書く指導を行う。

〈例〉【新聞の投書に対する意見文を書こう】

T：「投書で使われているキーワードを使って
意見文を書こう」

キーワード

- ・複数回、使われている言葉に注目。
- ・中心文から探してみる。
- ・何度も読み返し、心に残った言葉。

投書で使われているキーワードは何か。

ここがポイント！

- ①投書に対して、賛否や解決方法など自分の立場や伝えたい事実を明確にさせる。
- ②立場を表明する部分によって、「頭括型」「尾括型」「双括型」といった構成を考えさせる。
- ③生徒同士で、作品を読み合い、伝えたい事実や事柄が、明確かどうか確かめさせる。

相手に効果的に伝わる、条件に沿った文章を書く指導

中1の「根拠を明確にして書くこと」を受けて、中2では、「具体的な記述によって、描写を工夫すること」が大切である。そこで、段落構成や行数、必ず使用する言葉などの条件を定めた、作文指導を繰り返すことを通して、事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わる文章を書く指導をする。また、国語の授業に限らず「書く活動」を多くの場面で取り入れることも効果的である。

〈例〉【登場人物の心情を読み取る】

T：「レントウの唇が動いたが、
声にならなかったのはなぜか」

「喜び」「寂しさ」「うやうやしい態度」の3語を使おう。

・原稿用紙の使い方も確認しよう。

ここがポイント！

- ①条件に示されている言葉を正しく引用（抜き出し）させる。
- ②文学的な文章、説明文や随筆など様々な種類の文章を基にして、文章を書かせる。
- ③分かりやすい説明や具体例を加えたり、表現しようとする内容にもっともふさわしい語句を選んで描写を工夫したりさせる。